

平成23年度三重県公営企業会計（病院事業庁）

決算審査意見書概要説明

三重県監査委員

平成23年度三重県公営企業会計（病院事業庁）

決算審査意見書概要説明

第1 審査の概要

決算審査の対象は、病院事業庁が経営する平成23年度の病院事業会計です。

決算の審査は、知事から提出された決算書類の内容について

- ① 決算の計数は正確であるか
- ② 決算諸表は、経営成績及び財政状態を適正に表示しているか
- ③ 予算は、議決の趣旨に沿って合理的かつ効率的に執行されているか
- ④ 事業経営は、常に経済性の発揮及び公共の福祉を増進するよう運営されているか

などを重点に、会計諸帳票、証拠書類との照合精査を行うとともに、必要な資料の提出を求め、関係当局の説明を聴取し、併せて定期監査、例月出納検査等の結果を参考に、慎重に審査を行いました。

第2 審査の結果及び意見

1 審査の結果

病院事業の決算諸表は、地方公営企業法及び関係法令に則り、病院事業庁会計規程に基づいて作成されており、その計数は正確であり、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められます。

また、事業の経営については、以下の審査意見のとおり留意又は改善を要するもののほかは、概ね適正に処理されているものと認められます。
(以下、この概要説明においては、金額は万円未満を切り捨てています。)

2 審査の意見

ア 平成 23 年度決算と新たな経営計画の策定等について

平成 23 年度の病院事業会計の収益的収支における総収支は、29 億 4,700 万円の純損失となっており、前年度に比べ 23 億 9,217 万円、赤字額は増加しています。これは主に、志摩病院において、指定管理者制度への移行に伴う退職金の支払等により、16 億 2,059 万円の特別損失を計上したことによるものです。

総合医療センター及び志摩病院は、平成 24 年 4 月から新たな運営体制に移行したところではありますが、病院事業庁においては、公営企業として、こころの医療センター及び一志病院の経営改善に向け、中期経営計画における「平成 24 年度年度計画」の病院の収支改善等に関して設定された目標が達成できるよう、病院の支援など積極的に取組を進めていただきたい。

また、平成 24 年度は中期経営計画の最終年度であり、県立病院がそれぞれの役割・機能を十分に発揮するために、県立病院改革の動向を踏まえつつ、複数年を見据えた新たな経営計画を策定していただきたい。

なお、平成 23 年度の各病院の収支状況及び留意事項については、次のとおりです。

(1) 総合医療センター

総収支は 20 億 764 万円の黒字であり、前年度に比べ 16 億 6,575 万円、黒字額が増加しています。

これは、企業債繰上償還補償金等の増により、特別損失が前年度に比べ 5 億 2,763 万円増加したことや、看護師の増、固定資産除却損の増等により、医業費用が 2 億 6,362 万円増加したものの、資本剰余金の病院

間貸借解消等により、特別利益が前年度に比べ26億6,079万円増加したことによるものです。

平成24年4月から地方独立行政法人化したところではありますが、所管する健康福祉部と連携しながら、法人化のメリットを生かすことにより、刻々と変化する医療環境に柔軟かつ迅速に対応できるよう期待します。

(2) こころの医療センター

総収支は25億2,906万円の赤字であり、前年度に比べ27億1,399万円、収支が悪化しています。

これは、資本剰余金の病院間貸借解消により、特別損失が前年度に比べ26億8,581万円増加したことや、給与費等の増により、医業費用が前年度に比べ8,643万円増加したことによるものです。

なお、経常収支では、各種医療相談、家族相談サービスの充実による外来患者数の増や、入院単価の増等により、2億6,102万円の黒字を確保しています。

病院機能の再編検討の結果策定された外来・相談機能の整備等の取組を着実に進めることで、地域生活支援体制を強化するとともに、救急・急性期医療等を推進し、精神科医療の中核病院として求められる役割や機能の充実を図っていただきたい。

(3) 一志病院

総収支は9,577万円の赤字であり、前年度に比べ1億2,729万円、収支が悪化しています。

これは、資本剰余金の病院間貸借解消により、特別損失が前年度に比べ1億679万円増加したことや、給与費等の増により、医業費用が前年

度に比べ2,935万円増加したことによるものです。

なお、経常収支では、リハビリテーション部門の施設基準の維持・向上等に取り組んだ結果、入院単価・外来単価の増等により、2,441万円の黒字を確保しています。

当分の間、県立県営で運営を行うこととされており、引き続き、家庭医療を提供するとともに、訪問診療・訪問看護の充実など、地域の医療ニーズに対応していただきたい。

また、過疎化・高齢化が進む中、さらに在宅医療の支援や予防医療に取り組むとともに、総合医（家庭医）の育成拠点として整備し医師の育成を図るなど、高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるような地域医療の推進に努めていただきたい。

※ 家庭医療＝性別、年齢を問わず、身近な病気を中心に、けがや心の悩み、病気の予防や介護なども含めて患者の相談にのり、総合的に診療を行う医療のこと。また、家庭医療に専門的に従事する医師を家庭医又は総合医と言う。

(4) 志摩病院

総収支は23億2,981万円の赤字であり、前年度に比べ12億1,663万円、赤字額が増加しています。

これは、退職手当特例措置分の繰入金等の増により、特別利益が前年度に比べ5億1,551万円増加したものの、退職給与引当金の増により、特別損失が前年度に比べ16億1,040万円増加したことによるものです。

平成24年度から導入した指定管理者制度の特性を生かして、医師確保と運営体制の改善を図れるよう、病院事業庁においては、基本協定や業務報告等に基づきその運営状況を把握・評価しながら、指定管理者と連携しつつ、地域医療の確保・推進に努めていただきたい。

収益的収支の状況

(単位：円)

病 院 名	区 分	平成23年度 (A)	平成22年度 (B)	増 減 (A)－(B)
総合医療センター	総 収 支	2,007,646,494	341,890,919	1,665,755,575
	経 常 収 支	△ 118,469,662	348,929,919	△ 467,399,581
こころの医療センター	総 収 支	△ 2,529,064,422	184,933,281	△ 2,713,997,703
	経 常 収 支	261,027,807	289,212,281	△ 28,184,474
一 志 病 院	総 収 支	△ 95,776,002	31,523,039	△ 127,299,041
	経 常 収 支	24,416,716	44,919,039	△ 20,502,323
志 摩 病 院	総 収 支	△ 2,329,815,027	△ 1,113,182,845	△ 1,216,632,182
	経 常 収 支	△ 1,224,734,949	△ 1,102,992,845	△ 121,742,104
計	総 収 支	△ 2,947,008,957	△ 554,835,606	△ 2,392,173,351
	経 常 収 支	△ 1,057,760,088	△ 419,931,606	△ 637,828,482

※ 経常収支は、総収支から特別利益・特別損失を除いたもの。

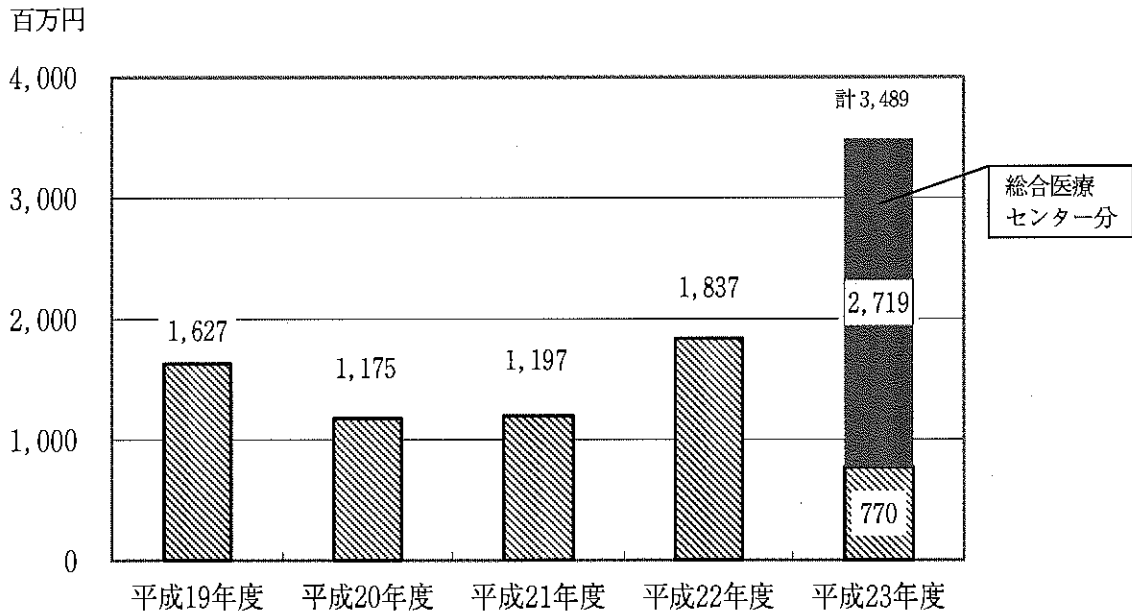
イ 資金収支の改善について

平成23年度末の正味運転資本(内部留保資金)は前年度より、16億5,206万円増加し34億8,937万円(流動資産71億3,632万円から流動負債36億4,694万円を差引いた額。流動資産のうち現金預金は46億8,828万円)となっていますが、この内部留保資金には、総合医療センターの27億1,918万円を含んでおり、これを除くと7億7,019万円であります。

また、平成24年度からは資金収支が黒字の総合医療センターが病院事業会計から分離しており、今後、設備投資等に多額の資金が必要となった場合などには、資金収支がさらに悪化する場合も考えられます。さらに、病院間資金貸借解消等のために一般会計から47億1,417万円の長期借入を新たに行っています。

こうしたことから、将来の病院事業収支予測と資金計画及び改良計画等の整合のもと、より一層の資金収支の改善に努めていただきたい。

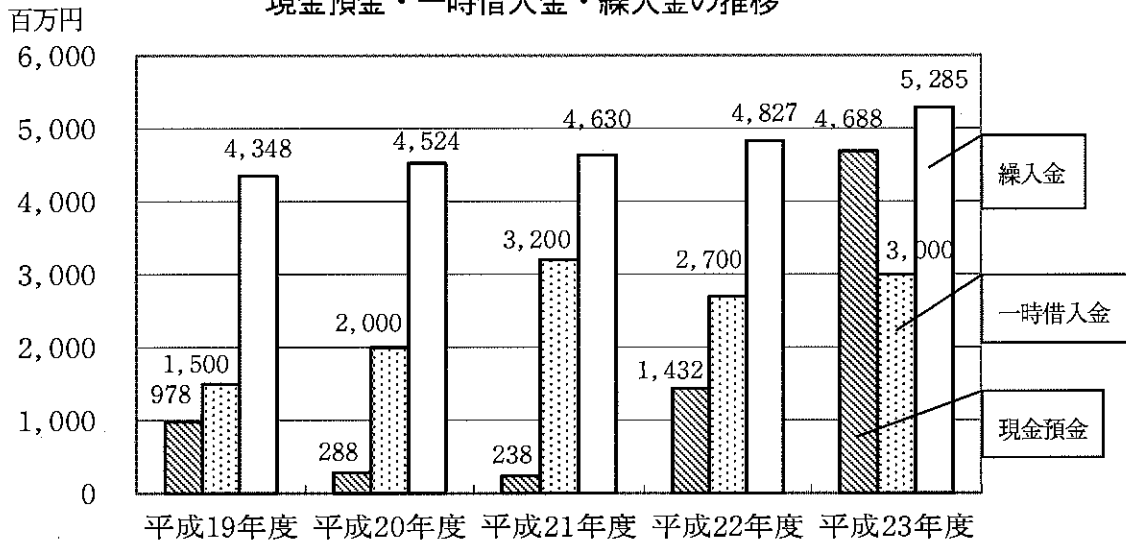
正味運転資本(内部留保資金)の推移



※ 正味運転資本(内部留保資金)

現金預金及び1年以内に資金の収入が見込まれる流動資産(未収金等)から、1年以内に資金の支出が見込まれる流動負債(未払金等)を差し引いたもの。

現金預金・一時借入金・繰入金の推移



ウ 未収金の回収と発生防止について

平成23年度末における診療費自己負担金の未収金(過年度収入未済額)が、4病院合計で1億3,726万円となっています。

未収金の回収については、電話、文書、訪問等による督促に加え、裁判

所を通じての支払督促、弁護士法人への回収委託を行っており、平成 23 年度中に 1,792 万円を回収（会計上の減額処理 3,126 万円と合わせ過年度未収金は 4,918 万円減少）しているところではありますが、引き続き回収に向けての取組を進めていただきたい。

また、平成 23 年度においては、2,083 万円の未収金が新たに発生しているため、早期の回収に努めるとともに、未収金発生防止に向けた取組を継続していただきたい。

診療費自己負担金の過年度未収金 (単位：円)

病 院 名	平成23年度 A		平成22年度 B		増減 A-B	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
総合医療センター	430	87,303,213	482	104,721,056	△ 52	△ 17,417,843
こころの医療センター	133	31,544,268	179	34,274,875	△ 46	△ 2,730,607
一 志 病 院	9	445,556	18	827,983	△ 9	△ 382,427
志 摩 病 院	123	17,969,760	172	25,786,089	△ 49	△ 7,816,329
合 計	695	137,262,797	851	165,610,003	△ 156	△ 28,347,206

※ 平成 24 年度から法人化した総合医療センターは、23 年度以前の過年度未収金についても同法人に引き継いで対応している。また、指定管理者による運営に移行した志摩病院の平成 23 年度以前の過年度未収金については、本庁（県立病院課）が所管している。

未収金増減の内訳 (単位：円)

病 院 名	新規発生	回収	会計上の減額処理	計
総合医療センター	10,434,020	△ 7,002,573	△ 20,849,290	△ 17,417,843
こころの医療センター	6,845,260	△ 4,477,497	△ 5,098,370	△ 2,730,607
一 志 病 院	17,593	△ 400,020	0	△ 382,427
志 摩 病 院	3,538,985	△ 6,040,133	△ 5,315,181	△ 7,816,329
合 計	20,835,858	△ 17,920,223	△ 31,262,841	△ 28,347,206

エ 地方公営企業会計制度の見直しにかかる対応について

地方公営企業会計制度の見直しに伴い、地方公営企業法の一部改正が行われ、法定積立金（利益積立金等）の積立義務の廃止などが盛り込まれた

資本制度については、平成 24 年 4 月から施行されています。

また、関係政省令も改正され、借入資本金の負債計上、みなし償却制度の廃止、退職給付引当金計上の義務化、キャッシュフロー計算書の導入などが盛り込まれた会計基準については、平成 26 年度予算及び決算から適用とされています。

病院事業庁においては、既にキャッシュフロー計算書の作成やセグメント情報（病院別損益計算書等）の開示を行っているところではありますが、今後は、情報収集に努めるとともに、財務会計システムの改修等を計画的に行い、制度見直しに的確に対応していただきたい。

第3 経営の概要

1 事業の概況

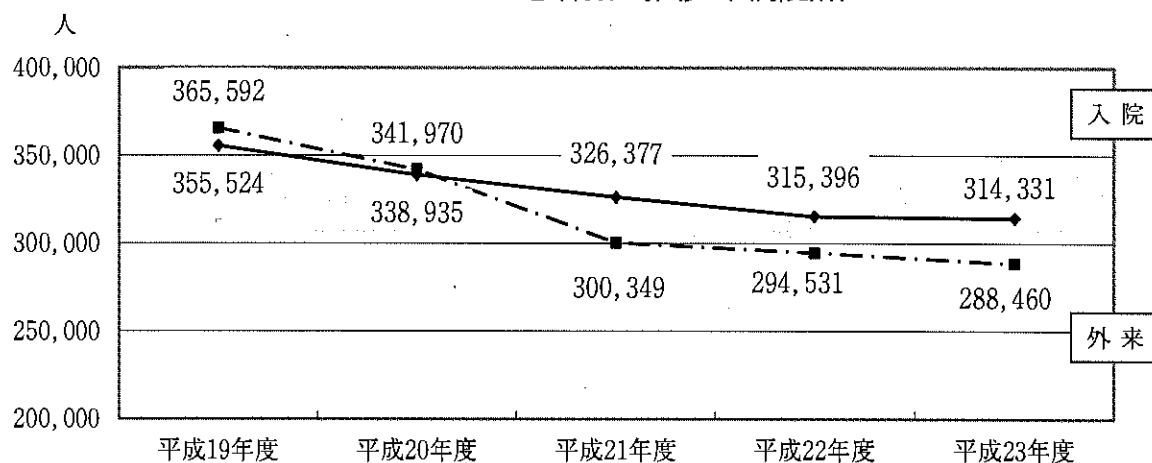
病院事業は、病院事業庁が総合医療センター、こころの医療センター、一志病院及び志摩病院の4病院を運営してきましたが、平成24年4月からは、総合医療センターが地方独立行政法人化されたこと及び志摩病院に指定管理者制度が導入されたことに伴い、県組織としての「総合医療センター」及び「志摩病院」は廃止されています。

4病院の許可病床数は、平成23年度末時点で計1,286床ですが、一般病床のうち、総合医療センターで90床、志摩病院で118床が一時休床となっています。また、一志病院では療養病床44床が平成19年度から一時休床となっており、総合医の育成拠点としての整備を行うにあたって、24年4月から病床数を44床から40床に改めました。

なお、総合医療センターでは、看護師等医療スタッフが確保できたことから、平成23年11月から休床病床114床のうち24床が再稼動しています。

患者数の状況としましては、平成23年度の入院患者数は延べ314,331人（1日平均859人）で、前年度に比べ1,065人減少し、外来患者数は延べ288,460人（1日平均1,182人）で、前年度に比べ6,071人減少しています。

患者数の推移（4病院計）



2 経営成績

平成23年度の総収益は212億984万円であり、内訳は入院・外来収益等の医業収益が139億1,971万円、一般会計からの繰入金等の医業外収益が41億1,382万円、資本剰余金の病院間貸借解消等にかかる特別利益が31億7,630万円となっています。収益は、主に特別利益の増により、前年度に比べ31億14万円増加しています。

総費用は241億5,685万円であり、内訳は給与費、材料費等の医業費用が180億1,830万円、企業債支払利息等の医業外費用が10億7,299万円、資本剰余金の病院間貸借解消等にかかる特別損失が50億6,555万円となっています。費用は、主に特別損失の増等により、前年度に比べ54億9,231万円増加しています。

この結果、純損益は29億4,700万円の赤字となり、前年度に比べ23億9,217万円、純損失が増加しています。

また、純損益から特別利益及び特別損失を除いた経常損益は、10億5,776万円の赤字となっています。

病院事業の収益的収支

(単位：円)

科 目	平成23年度(A)	平成22年度(B)	増減(A) - (B)
総 収 益	21,209,844,775	18,109,700,210	3,100,144,565
医 業 収 益	13,919,715,081	14,028,770,794	△ 109,055,713
医 業 外 収 益	4,113,825,747	4,080,929,416	32,896,331
特 別 利 益	3,176,303,947	0	3,176,303,947
総 費 用	24,156,853,732	18,664,535,816	5,492,317,916
医 業 費 用	18,018,309,115	17,464,874,559	553,434,556
医 業 外 費 用	1,072,991,801	1,064,757,257	8,234,544
特 別 損 失	5,065,552,816	134,904,000	4,930,648,816
経 常 損 益	△ 1,057,760,088	△ 419,931,606	△ 637,828,482
純 損 益	△ 2,947,008,957	△ 554,835,606	△ 2,392,173,351

3 一般会計繰入金の状況

平成23年度の医業外収益の繰入金は、39億1,584万円であり、前年度に比べ3,978万円増加しています。増加した主な理由は、医療行政に要する経費（県立病院経営室人件費等）に対する繰入金の増によるものです。特別利益の繰入金は、3億8,369万円であり、医療行政に要する経費（志摩病院等の退職手当特例措置）に対する繰入金が平成23年度に新たに発生したものです。

資本的収入の繰入金は、9億8,558万円であり、企業債償還に対する繰入金の増により、前年度に比べ3,458万円増加しています。

繰入金の内訳

(単位：円・%)

項 目		平成23年度 (A)	平成22年度 (B)	増 減 (A) - (B)	増減率 (A)/(B)
総合医療 センター	医業外収益	1,592,622,000	1,586,578,773	6,043,227	100.4
	特別利益	18,294,000	0	18,294,000	皆増
	資本的収入	517,331,000	505,237,000	12,094,000	102.4
	計	2,128,247,000	2,091,815,773	36,431,227	101.7
こころの医療 センター	医業外収益	934,007,000	997,066,329	△ 63,059,329	93.7
	資本的収入	199,579,000	190,278,000	9,301,000	104.9
	計	1,133,586,000	1,187,344,329	△ 53,758,329	95.5
一志病院	医業外収益	296,380,000	299,993,000	△ 3,613,000	98.8
	資本的収入	51,723,000	50,461,000	1,262,000	102.5
	計	348,103,000	350,454,000	△ 2,351,000	99.3
志摩病院	医業外収益	735,770,000	727,533,511	8,236,489	101.1
	特別利益	365,400,000	0	365,400,000	皆増
	資本的収入	216,956,000	205,033,000	11,923,000	105.8
	計	1,318,126,000	932,566,511	385,559,489	141.3
県立病院 経営室	医業外収益	357,063,000	264,884,600	92,178,400	134.8
	資本的収入	-	-	-	-
	計	357,063,000	264,884,600	92,178,400	134.8
合 計	医業外収益	3,915,842,000	3,876,056,213	39,785,787	101.0
	特別利益	383,694,000	0	383,694,000	皆増
	資本的収入	985,589,000	951,009,000	34,580,000	103.6
	計	5,285,125,000	4,827,065,213	458,059,787	109.5

(注) 医業外収益＝建設改良及び退職手当特例措置に要する経費以外の繰入金
 特別利益＝退職手当特例措置に要する経費の繰入金
 資本的収入＝建設改良に要する経費の繰入金

第4 病院別の状況

1 総合医療センター

(1) 患者数の状況

平成23年度の延べ入院患者数は107,640人（1日平均294人）であり、前年度に比べ17人増加しています。延べ外来患者数は129,328人（1日平均530人）であり、前年度に比べ8,138人減少しています。

(2) 経営成績

平成23年度の総収益は126億4,681万円であり、資本剰余金の病院間貸借解消による特別利益の増等により、前年度に比べ24億6,345万円増加しています。

総費用は106億3,916万円であり、企業債繰上償還補償金による特別損失の増等により、前年度に比べ7億9,769万円増加しています。

総収支は、前年度に比べ16億6,575万円改善し、20億764万円の黒字となっています。

2 こころの医療センター

(1) 患者数の状況

平成23年度の延べ入院患者数は120,149人（1日平均328人）であり、前年度に比べ1,738人減少しています。延べ外来患者数は62,765人（1日平均257人）であり、前年度に比べ2,694人増加しています。

(2) 経営成績

平成23年度の総収益は34億3,005万円であり、入院患者数は減少したものの、診療単価の増による入院収益の増等により、前年度に比べ5,569万円増加しています。

総費用は59億5,911万円であり、資本剰余金の病院間貸借解消による特別損失の増等により、前年度に比べ27億6,969万円増加しています。

総収支は、前年度に比べ27億1,399万円悪化し、25億2,906万円の赤字となっています。

3 一志病院

(1) 患者数の状況

平成23年度の延べ入院患者数は12,038人（1日平均33人）であり、前年度に比べ683人減少しています。延べ外来患者数は22,343人（1日平均92人）であり、前年度に比べ303人減少しています。

(2) 経営成績

平成23年度の総収益は8億4,538万円であり、診療単価の増による入院・外来収益の増等により、前年度に比べ840万円増加しています。

総費用は9億4,115万円であり、資本剰余金の病院間貸借解消による特別損失の増等により、前年度に比べ1億3,569万円増加しています。

総収支は、前年度に比べ1億2,729万円悪化し、9,577万円の赤字となっています。

4 志摩病院

(1) 患者数の状況

平成23年度の延べ入院患者数は74,504人（1日平均204人）であり、前年度に比べ1,339人増加しています。延べ外来患者数は74,024人（1日平均303人）であり、前年度に比べ324人減少しています。

(2) 経営成績

平成23年度の総収益は39億2,349万円であり、退職手当特例措置分の繰入金にかかる特別利益の増等により、前年度に比べ4億8,258万円増加しています。

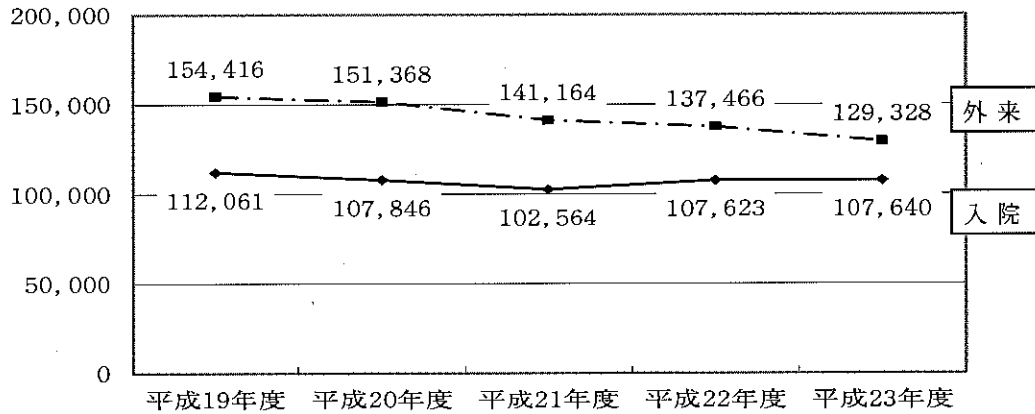
総費用は62億5,330万円であり、退職給与引当金による特別損失の増等により、前年度に比べ16億9,921万円増加しています。

総収支は、前年度に比べ12億1,663万円悪化し、23億2,981万円の赤字となっています。

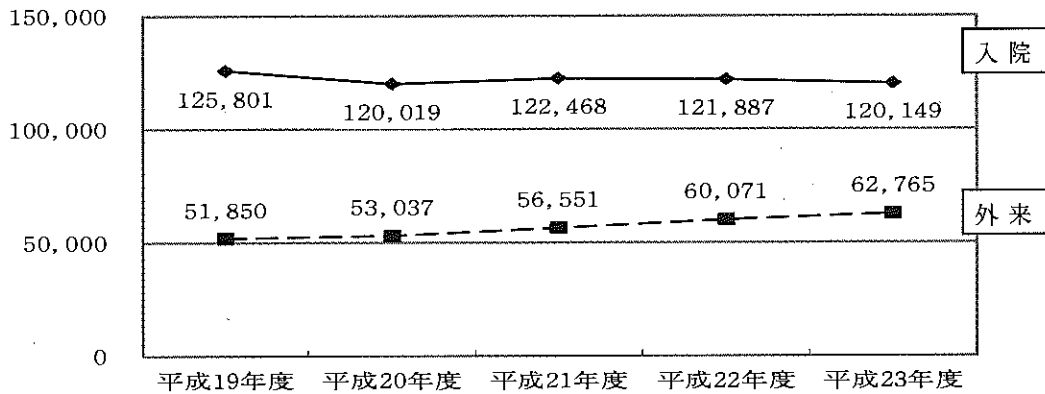
(参考)

患者数の推移 (単位:人)

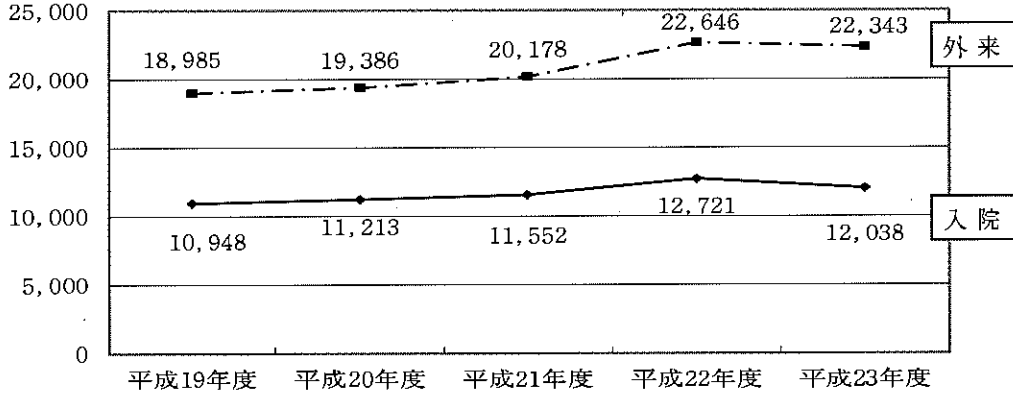
総合医療センター



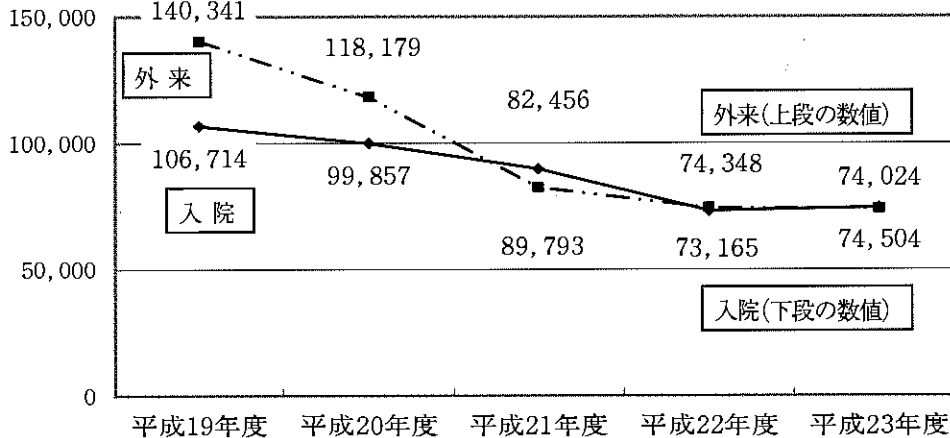
こころの医療センター



一志病院

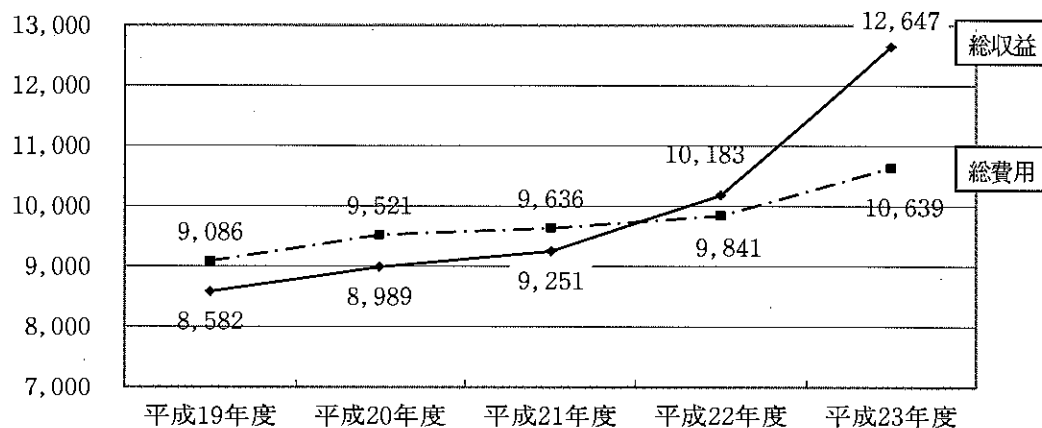


志摩病院

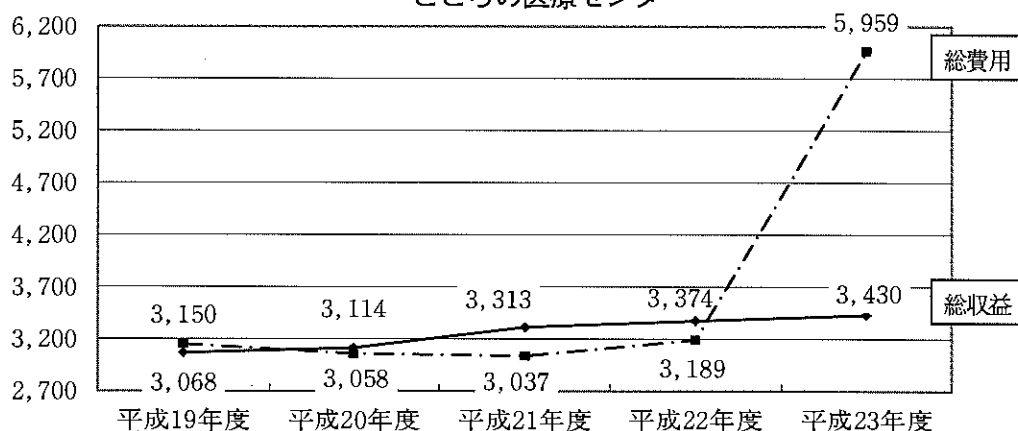


総収益と総費用の推移（単位：百万円）

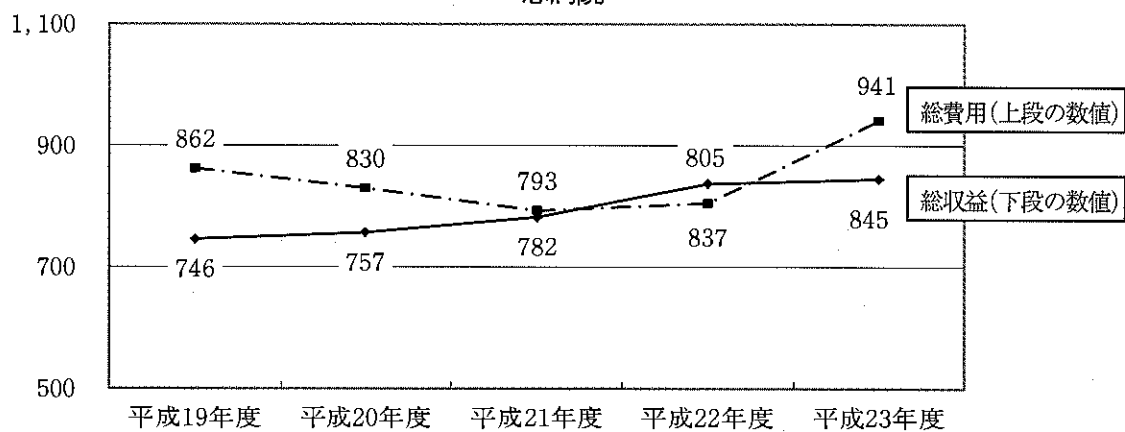
総合医療センター



こころの医療センター



一志病院



志摩病院

